

鳥獣害に強い地域づくりを目指して

～地域が一丸となって鳥獣害対策をしましょう～

鳥獣害対策マメ知識



犬を利用したサル対策先進地

- ニホンザル被害対策の手段の一つとして、本格的に犬を最初に導入したのは、長野県大町市です。大町市には、農作物等に被害を与えるサル群が9群、個体数で約500頭が生息していると言われています。
- 大町市周辺のサル調査をしているある専門家が犬の訓練所に出向き「犬を使ってサルを追い払うことはできないか？」という言葉きっかけに、犬訓練所、被害農家、大町市が中心となり、いわゆる「モンキードッグ事業」がスタートしました。
- 農家で飼育している犬を訓練所にあずけ、飼主も一緒に訓練し、訓練終了後犬を利用して日常的にサルを追い払うものです。犬を導入した農家近隣では、確実に被害が減っており一定の効果あげています。
- もちろん、モンキードッグと飼主農家だけでなく、電気柵や簡易柵、地区での追払い、里山整備等平行して被害対策を実施していることも効果をあげている要因となっています。



サル実施訓練をする犬
(山梨県環境科学研究所提供)

北杜市の鳥獣害対策犬

- 中部西関東市町村連携軸協議会が主催する「里守り犬プロジェクト」の第1回訓練会が開催されました。
- 甲斐犬4頭と飼主との初めての訓練会となり、戸惑う飼主とは対照的に、4頭は元気な姿を見せました。訓練会は週1回確認テストを実施し、確認テストに合格した犬は、次の段階へ進むステップ方式の訓練が約1年に渡り行われます。
- 大町市等が行う専門家が訓練した犬を連れて飼主が鳥獣を追い払う従来の方法とは異なり、飼主が毎日接し、子犬の頃から地域犬として一緒に訓練することで、より地域に根付くことが期待されます。今回飼主の他に、甲斐犬を導入する地域のみなさまにも協力をお願いします。

